

美幌町における地域公共交通活性化・再生総合事業(計画事業最終年度)

美幌町地域公共交通総合連携計画の目標

- ・お年寄りにやさしく平等で持続可能な郊外公共交通体系の構築。
- ・身近にスポーツ、レクリエーションを楽しむことができる新たな公共交通の確保。
- ・市街地全体への気軽で身近なバス輸送サービスの提供。
- ・中心市街地の活性化に寄与していく交通結節点機能の確保。
- ・公共交通情報等提供による利便性向上と利用増進。

23年度総合事業計画の概要

1. 事業内容[美幌循環線実証運行の概要]

(1) 運行予定期間

- ・10月17日から3月31日までの6ヶ月間

(2) 運行路線と路線距離

野崎を經由する路線：15.5 km 美幌高校を經由し、野崎を經由しない路線：
14.7 km 野崎、美幌高校を經由しない路線：12.5 km

(3) 運行回数

- ・平日 左右回り各3便 左右回り各2便 左右回り各2便
- ・土曜 左右回り各2便 なし 左右回り各1便

年末年始の平成23年12月31日(木)～平成24年1月3日(火)までの期間は全便運休。

美幌高校の「冬休み期間」の平成23年12月23日(金)～平成24年1月15日(日)までは、美幌高校まで連絡しない。

(4) 停留所

- ・5カ所新設(野崎、野崎北、三橋2丁目、美幌橋、美幌高校)

(5) 運賃等

- ・1乗車100円(子供、障害者等半額)

(6) 実施主体

- ・阿寒バス(株)

美幌町地域公共交通活性化協議会開催状況

9月20日 第1回協議会を開催

- ・前年度決算、今年度予算の承認について
- ・実証運行内容の協議、同意について
- ・今後のスケジュールについて

2. 乗合タクシーの運行

(1) 運行予定期間

- ・10月17日から12月16日までの2ヶ月間

(2) 運行区域と運行曜日

- ・各方面毎に曜日を設定(運行日が祝日の場合は翌日に振り替え)
- ・豊岡方面【月】、栄森方面【月】、豊幌登栄方面【火】、古梅方面【水】、日並都橋方面【木】、報徳田中方面【金】 の6区域

(3) 運行回数

- ・1日当り2便(「行き」と「帰り」)

(4) 輸送対象者(登録者90名)

- ・町営バス利用者、福祉バス利用者
駒生(日並都橋方面)、昭野(栄森方面)地域で新規利用者を募集

(5) 運賃等

- ・運賃額 一律500円/回
- ・運賃形態
「回数券」(500円×4枚綴り=2,000円)か「福祉バス利用代替券」
実証期間中運休となる福祉バスの利用者にはサービス券を配付

(6) 実施主体

- ・美幌北海道交通ハイヤー(株)

23年度事業の実施状況

プロセス
創意工夫

< 美幌循環線 >

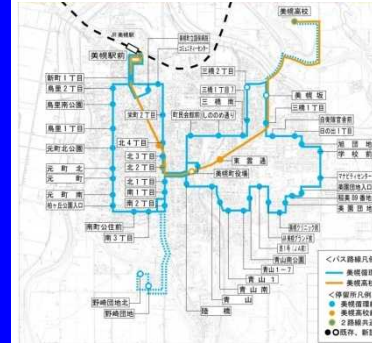
・平成21年度、平成22年度の実証運行の結果を踏まえながら、美幌高校の統合に伴い新たに一部便を高校まで延伸し利便性を享受できる区域の拡大を図った。

< 乗合タクシー >

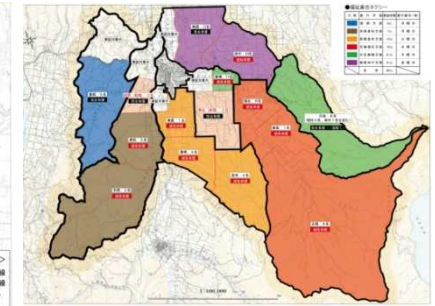
・平成22年度実証運行で行った郊外路線バスでは輸送困難な地域について無料による乗合タクシーの実証運行を踏まえ、本格運行を目指し、郊外部の概ね全域において運賃を一乗車500円の有償で設定し、実証を行った。

運行ルート

< 美幌循環線 >

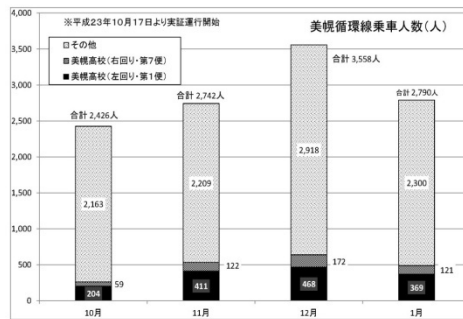


< 乗合タクシー >

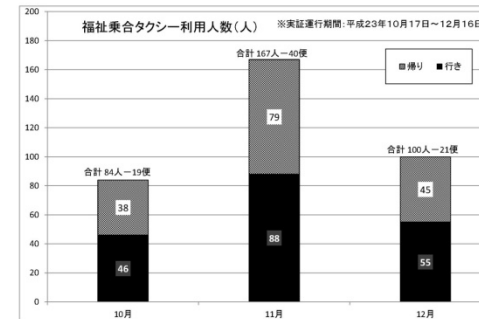


利用実績

< 美幌循環線 > 10月～1月 月別利用者数

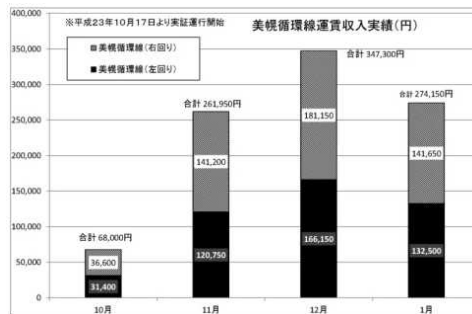


< 乗合タクシー > 10月～12月 月別利用者数

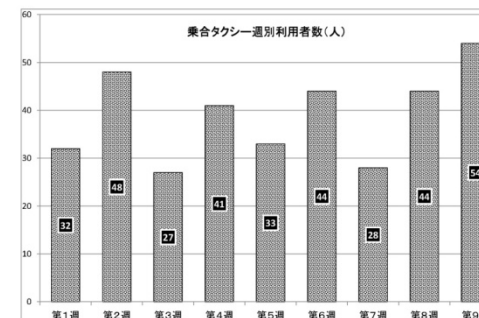


収入実績

< 美幌循環線 > 10月～1月 運賃収入



< 乗合タクシー > 第1週～9週 利用者数



事業実施効果

<美幌循環線>

・美幌高校の統合に合わせて「美幌高校」まで運行区域を拡大した

結果、10月17日の実証開始から12月末までに延べ1,436人の美幌高校生が利用しており、通学を目的とした日常的な公共交通手段としての役割を果たしている。

・月毎の輸送人数についても、前年同月をいずれも上回る実績となっている。

<乗合タクシー>

・90名の登録者のうち41名が乗合タクシーを利用し、乗合タクシー利用実績が延べ351回となり、2ヵ月間の実証期間中の利用回数を利用者一人当たりで平均すると8.6回となった。（最大は一人当たり16回の利用）

自己評価のポイント

・平成21年度、平成22年度の実証運行の結果を踏まえながら、美幌高校の統合に伴い新たに一部便を高校まで延伸し利便性を享受できる区域の拡大を図った。（美幌循環線）

・郊外部の路線バスでは輸送困難な概ね全域において、乗合タクシーの実証運行を行った。

二次評価のポイント

・自己評価のとおり。

・循環線の本格運行については、現時点において運賃やダイヤ等検討すべき課題がある。

今後も利用者や運行事業者との合意形成に向けて努力されたい。

今後の課題

<美幌循環線>

・美幌高校の全生徒を対象としたアンケート調査から、利用者の更なる増加も見込まれることから、これまでの左回り第1便（登校便）と右回り第7便（下校便）に加え、新たに右回り第1便と左回り第7便の美幌高校までの延伸も含めた検討、協議を要する。

・停留所「美幌高校」付近の状況等を阿寒バス（株）より聞き取るなどして、定時運行状況を把握した上で運行時刻の調整が発生する場合も想定し検討する必要がある。

・美幌高校への連絡の有無により、運行時刻が異なってくるため、時刻表の表示方法、住民への周知等について検討を要する。

・申請関係の事務処理期間を含め、本格運行への日程を検討する必要がある。

<乗合タクシー>

・利用者意識調査の結果に基づき需要を把握するとともに、利用者の利便性も考慮しながら、現行の福祉バスとの経費面等の検討を要する。

・実証運行においては、現行福祉バス利用者には、無料代替券を配付しており、本格運行へ向けて運賃（完全有償、減免有償）等の設定について検討をする必要がある。

・今後、現行町営バス3路線は混乗スクールバス化し、現行スクールバスも混乗化し本格運行を目指すこととしており、それら路線や民間バス路線も含めて体系的な整理が必要になる。